

中山道「御嶽宿」地域活性化事業

自治体情報 岐阜県 御嵩町

人口 / 18,986人 標準財政規模 / 4,428百万円

担当課 御嵩町役場 まちづくり課
電話番号 代表 0574-67-2111
実施主体 みたけ地域活性化委員会 / 御嵩町
関連ホームページ <http://www.town.mitake.gifu.jp>

事業期間 平成20年度から
関係施策分類 ①、②、④

予算関連データ

総事業費：90,354千円 (H20・H21・H22)

名称	所管	金額(千円)
地域活性化・生活対策臨時交付金	総務省	58,702
魅力ある商店街づくり助成事業	(財)地域活性化センター	21,000
森林整備加速化・林業再生事業補助金	林野庁	7,205
いきいきまちづくり整備等補助金	岐阜県	3,447

施策のポイント

地域住民で組織する「みたけ地域活性化委員会（三澤照一委員長）」が主体となり、行政との協働のもと、中山道の宿場町として賑わった「御嶽宿」の景観修景を平成20年から手づくりでおこなっている。

また、地元の元町地域をはじめ、観光協会、商工会、活動団体、地元高校生、日本福祉大学などの参画を得て、幅広い年代層を巻き込みながら活動を展開している。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

慶長5年（1600）、天下統一を果たした徳川家康は、慶長7年（1602）には「中山道」を整備し、69の宿場のなかで「御嶽宿」はいち早く宿場として設置され、多くの人や荷物、情報や文化が往来したが、明治維新後、近代化がすすむなか当時の風情は次々と消えていった。

しかしながら、中山道「御嶽宿」を地域固有の財産として保存活用をはかっていく気運が高まり、地域住民を中心に「御嶽宿地域再生構想（2008）」、「御嶽宿地域景観等整備指針（2009）」を策定。

以降、住民団体「みたけ地域活性化委員会」が「手作りの景観修景」をスタートさせた。

2. 取組の具体的内容

同委員会では、「御嶽宿」の賑わいづくりをおこなっていくにあたり「景観づくり」に着目し、まずは宿内にあるゴミ集積箱の修景をおこなった。半信半疑で始まったが、自分たちの手で板を切り、打ちつけ、色を塗るなどの作業を通して、物を作りあげることの大変さを感じる半面、達成感も大きく、以後、継続した景観修景事業を実践している。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

「御嶽宿」地域の景観づくりが今後どのように評価されるかはわからないが、「御嶽宿なんてもう遅いよ…」といった機運が大半を占めるなか、「何かをやりはじめなければ何もかわっていかない…」という信念のもとで継続し、がむしゃらに取り組んできたのが実情である。

4. 現在までの実績・成果

景観修景事業は、平成20年からのおよそ3年間で、「御嶽宿」地域内の建物7軒、犬矢来7基、灯籠12基などの設置をおこなった。

平成23年7月には、一般社団法人日本経営協会より「活力協働まちづくり推進団体表彰／準グランプリ」を、24年1月には国土交通省「手づくり郷土賞」の表彰を受ける。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

御嶽宿地域へ入って「景観づくり」をおこなっていくことに対し、「景観」という概念がこれまで存在していないなか、不安を持ってのスタートであったが、完成後には満足感があり、建物の修景・灯籠の設置をおこなっていく過程で景観が整備され、本来持つ魅力や観光地としてのポテンシャルへの「気づき」がみられるようになってきた。

こうして修景作業も次第に恒例化し、当初の「不安」から「楽しみ」へと変わってきている。

6. 今後の課題と展開

「御嶽宿は最近かわってきたね…」といった声が聞こえるようになってきているが、決して自分たちの自己満足で終わらせるのではなく、仲間を増やし、いかに来訪者を増やしていくのが今後の課題でもある。

さらには、地域住民が「御嶽宿」という歴史を理解し、景観づくりに協力していくなかで「誇り」と「自信」を持って暮らしていけるような活動に広げていく必要があると同時に、公的な資金を利用した「景観形成補助金制度」策定の後押しをしていく必要があるとも考えている。

今年度は、ソーラー発電式の「御嶽宿行燈（あんどん）」を宿内の軒先に設置しようと、地元「県立可児工業高等学校」「岐阜大学」「みたけ地域活性化委員会」が協働で設計と製作をおこなっている（2012.2完成予定）。

この「行燈（あんどん）」は、防災面でも活用できるように、常時は御嶽宿の演出として使用し、非常時には電源が不足する避難所でも灯りとして利用できるように仕様とし、「御嶽宿ブランド」として広めていきたい。